

観測部月報

★

東亞天文協會

★流星課だより (85)

小橋孝二郎

十一月は有名な Leonids の月である、出現は全く例年並に落ちてしまつただらうが極大前後は注意せねばならぬ。今年は幸ひ大した月の邪魔もない。上旬から中旬にかけては牛座羊座から火球を伴ふ流星群が放射する、最近の流星天文學界で重要視されてゐるので特に観測を希望する。其他月初の双子座流星群、下旬の大熊座流星群牛座流星群、アンドロメダ流星群等の流星群も注意すべきものである。

× × ×

前回報告後到着した報告は松橋高四郎氏(東京)の八月11, 13日のもの、坂上務氏(鹿児島)の八月4日及12日のもの、實方雅雄氏(京城)の七月31日~1日のもの、吉井耕一氏(竹原)の五月乃至七月のものである。他に京都の清水眞次氏から火球の報告があつた。筆者が九月に入つて今までに観測したものは下記の一のみである。

日付	時 間	流星數	r
4 日	2 時50分—3 時50分(60分)	21	0.9

六月以後の観測集計は次回に發表の豫定である。

(九月27日記)

★太陽課だより

報告者 14名(前月より2名増)新報告者は織田、島崎、野村の3兩氏。

天候 例年9月は悪い方であるが、本年は比較的晴天多く、観測日数は増加した。結局全員で補へば欠測日なしと云ふ好成绩であつた。

概況 更に前月よりも相対数は2割乃至3割減少した、7月の最盛期の半分に近い、特に中旬が淋しかつた、上旬及下旬には相當活潑な發生を見た様である。

肉眼的黒點	坂上,	津留,	正村,	堀田,	全體
観 測 日	21	18	7	13	59
出 現 日 數	7	11	6	5	29
黒點郡總數	15	16	9	9	49

先月よりも増加した。観測日と出現日數の比は0.49であるから、1ヶ月中半分は顯れて居たわけになる。而も大部分が下旬である。中にも25日、27日頃中央通過した南10度附近の兩黒點群が最もよく映じた様である。但し前者は明かに1群として見られたが、後者は2群とするよりも、望遠鏡的に見れば長大な1群とした方が正しい様であつた。

南北兩半球の比較

相対數を南北別に示す

	津留	織田	木邊	島崎	杵掛	淺居	堀田
南	24.7	25.4	35.4	34.7	32.5	73	50
北	45.0	60.3	62.4	38.3	66.1	30	76

太陽課 黑點相對數報告 (1938年8月)

觀測者 (觀測地)	坂上 務(鹿兒島市山下)	津留 繁雄(熊本市本莊町)	野村祐馬(和歌山市南田邊)	伊達英太郎(兵庫縣雲雀丘)	織田太郎(大阪市明星商業)	木邊 成磨(滋賀縣中里村)	正村 一忠(岐阜市濹旗町)	山田 達雄(愛知縣犬山町)	鳥崎光治(石川縣大聖寺町)	大石 辰次(静岡縣吉永村)	香掛 七二(長野縣青木村)	淺居 正雄(橫濱市神戶上)	堀田 泰生(橫濱市東寺尾)	御供印孝(東京市市立一中)	森久保 茂(東京慈惠醫大)
口徑 mm	102.34	32	60	76	75	25	75	69	102	58	38	50	50	70	60
倍率	67.53	50	62	75	60	48	68	87	64	75	60	50	32	50	62
1															
2	曇	83	—		缺	156	81	113	缺	曇	曇	雨	141	雨	缺
3	79	76	—		曇	173	曇	—	曇	曇	曇	曇	缺	曇	缺
4	83	75	—	器	曇	170	曇	92	曇	曇	曇	曇	缺	曇	143
5	106	雨	—		曇	132	雨	—	129	曇	曇	134	雨	曇	曇
6	93	曇	—		曇	缺	曇	119	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
7	雨	58	—		曇	106	曇	80	83	曇	曇	曇	曇	曇	曇
8	92	60	47	械	曇	116	缺	102	缺	曇	曇	曇	曇	曇	曇
9	88	72	36		曇	91	曇	85	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
10	72	51	36		曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
11	83	忙	36		曇	缺	70	78	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
12	曇	58	曇	修	曇	51	缺	51	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
13	71	曇	12		曇	56	曇	61	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
14	59	曇	13		曇	54	曇	53	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
15	雨	曇	13		曇	59	曇	65	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
16	60	50	36		曇	56	曇	76	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
17	59	51	24		曇	66	曇	63	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
18	曇	曇	25	理	曇	46	曇	—	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
19	曇	曇	25		曇	46	曇	—	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
20	71	雨	36		曇	64	雨	—	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
21	79	46	36		曇	81	曇	74	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
22	85	49	36		曇	56	曇	87	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
23	曇	47	26		曇	缺	曇	—	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
24	86	56	25		曇	75	曇	—	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
25	102	旅	53		曇	99	曇	62	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
26	114	125	76		曇	138	曇	86	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
27	131	132	缺		曇	曇	曇	141	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
28	雨	126	52		曇	181	曇	103	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
29	曇	曇	缺		曇	161	曇	117	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
30	147	曇	曇		曇	曇	曇	—	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
觀測日數	21	18	18		10	23	12	15	10	6	16	9	13	12	10
一日平均	88	70	34		86	98	61	87	73	—	98	103	126	51	74
前月	112	81	—		—	130	67	—	—	—	150	145	158	—	—

上表の如くである。淺居氏を除いた6名の平均は、南1.00に對して、北1.72（觀測者別のWeight を附して居ないから正確なものではないが）となつて來た。但し、香掛氏は全黒點の緯度を觀測されて居るから、先づ同氏の値の方が眞に近いだらう。さにかく前月（8月）とは逆に歴例的に北半球の出現が多かつた様である。最も高緯度のは25日に東半球に突起した小群で、北27°（香掛氏）同42°（津留氏）であつた。小生の概圖に依れば前者の値の方が正しい様である。さして顯著なものでは無かつた。

其他 堀田氏より3日以上觀測した黒點群の緯度、スケッチ4日分即ち10數群、津留氏よりも肉眼的3黒點群のスケッチ入手。

課員へ通信 南北兩半球に分けて居られる方への注意。下表を參考にして下さい。

11月7日	北極が東へ	23.6°	中心の緯度	+3.7°
	17		21.1	+2.6
	27		17.9	+1.4

又、大阪の某氏統計の1ヶ年毎の結果御報告下さい。

又、觀測器械は出来るだけ併用を避けて下さい。

訂正 天界209號 相對數表、(1938年6月)は(1938年7月)と訂正。失禮しました。

猶ほ欄上の天界 205 も 209 に訂正。課員にお詫びします。

天界210號 相對數表中、津留氏15日62は、63と訂正

天界210號 記事中(386)報告者10名は12に、()内3名は1名に訂正

★變光星課 9月分報告受理下表の通り

觀測者	西川 英男	小澤 喜一	廣瀬永治郎	坂上 務	三宅 和夫	清水 直次	鳥崎 光治	吉池 浩暢	木邊 成磨	合計 9名	前年同月
觀測地	大阪市	名古屋市	岐阜 卓	鹿兒島	大阪	京都市	石川 野	長野	滋賀		10名
星數	7	31	17	2	8	2	4	7	26	65	63
日測數	9	321	130	5	45	13	10	18	215	766	665

内譯第二部

小澤 喜一	木邊 成磨	計
31	19	34
321	192	513

8月分報告者追加 廣瀬永治郎 岐阜縣美濃町 15星 40日測。

第一部 (以下光度は略して數字だけで記します)

長週期星類 増光中: TX Dra 7.6—7.1 (吉池4), R Ser 8.1—7.4 (廣瀬5), 9.3—7.7 (三宅8), R Tri 7.9—7.0 (西川1, 廣瀬6),

極太附近 TCet 5.5内外 (廣瀬9, 三宅4, 但兩名揃はず) o Cet 3.7—4.7 個人差多し (廣瀬9, 三宅4, 清水3, 吉池1, 木邊3) R Sct 5.8 (廣瀬8), RY Sgr 7.0 (廣瀬6),

減光中: T Cep 6.7±減? (廣瀬11, 坂上3), W Cyg 5.6—6.9 (吉池4), x Cyg 7.3

—8.8減急(廣瀬12, 木邊1), U Her 7.8—8.0(廣瀬10), R Oph 7.3—8.0(西川1, 廣瀬8), X Oph 7.1—7.4(廣瀬12), R Sgr 7.7—8.5(西川1, 廣瀬10)

其他 : Cas 稍暗? (西川3, 島崎2, 木邊1,)

R CrB 下旬? から減光!!

9月14日	5.9 廣瀬, 5.7 木邊
16	6.3 三宅, 5.8 坂上
17	6.0 三宅,
18	5.7 木邊,
20	5.9 廣瀬,
22	5.7 木邊,
24	6.3 三宅,
25	6.1 木邊,
26	6.3 三宅, 6.2 木邊
29	6.8 廣瀬,
10月 4	7.5 木邊,
6	7.6 木邊,

R 冠型の代表星である R CrB 星が減光した事は課報, 急報で通知しましたが, 引續いて觀測して下さい. 最低14等位まで下降する事があります. 最近は1936年10月末から減光翌1937年1月頃11等級まで下降して, 其後漸次復光し, 38年春には 5.7 前後の平常光度に復歸して居たものです. 今回どれ位減光するか豫測出来ません. 11月末からは暁天の觀測になります.

第二部 2 Max, TZ Per (小澤, 木邊), UZ Ser (木邊); 1 Max, RX And, FO Aql, SS Cyg 短變, CV Lyr (小澤, 木邊), AV Lyr, SS Aur, CZ Ori (小澤);

其他 DI Cyg 上昇急 12.5—11.0 Max 近し, HN Cyg 14.0±, AO Oph min, EZ Aql 變化多(小澤, 木邊), SU Tau <13.8 (小澤), RS Oph 11.2± (木邊) 其他平常, 又は省略

課員へ ◎報告用紙の請求は送料同封の上木邊宛

◎ δ Lyr, η Aql, δ Cep 等を練習に見て居られる方は, 其等のみでなく, 同時に極大前のミラ型を見るのが實地を兼ねた更により練習です.

◎初心の者は觀測手引必讀して下さい. (以上10月7日, 木邊)

★遊 星 面 課 (9月)

茲に, 當課から渡邊恒夫氏が應召されたが, 今度, 前田治久氏が去る9月20日應召無事入隊された. 昨年度の火星に超人的活躍をされた兩氏が, 奇しくも, 共に應召されたのである. 兩氏の存分の活躍を, 武運長久を心から祈つてやまない. 同時に新しい觀測者の出でん事を切望してゐる.

金星, 木星, 土星は遊星界の人気者が出揃つたにかゝらず, 見取圖は非常に多い. 來年夏の火星の大接近への準備として, 本年度もウンミスケッチの練習をお願ひし度い.

新加入された, 鹿兒島市の坂上務氏から珍らしく, 水星の見取圖を3枚頂いた. 見取圖受領数を擧げると—

水星——坂上務氏3枚

金星——坂上務氏1枚 (これには特に斑點の觀測を報告されてゐる). 中津市の中野繁氏1枚.

木星——中野繁氏9枚、伊達幹事2枚

土星——坂上務氏1枚、

以上の如くで、地上のスケッチから今年度の各遊星の表面状態を記す、

金星——坂上氏、中野氏共に斑點を認められてゐる、反射能の非常に強いこの星の表面は、遊星中最も觀測の難しい星であるから、充分注意して觀測されたい。各異つた觀測者が異つた日に爲された見取圖を比較して見ると、全てが同じ位置に同じ濃さの同じ形態をした斑點を示してゐる事がよくある。これは明らかに（と云つて良い程）イルージョン（幻影）を見て良い空のバックが暗くなり金星が眩しく輝いてゐる時、特によく幻影を見る、こんな場合、ごく良質の青色系統のムーン・グラスを用ひるか又は反射望遠鏡ならば主鏡の銀を除いて見ると幻影を除く事が出来る。

木星——昨年度の表面とは、縞の位置及濃さ色彩が随分異つてゐる。特に南温帯縞が淡く細くなつた變りに南赤道帯縞が赤味を増し、又所々に綠色氣味な部分が混在して濃く太くなつた。赤道部は著しく赤味が強くなつて來た事は、今年邊が赤道帯が最も赤色が強くなること云ふ説が思ひ合はされて面白い。今後もこの赤道部の色彩の變化に十分注意をして頂きたい。

今一つ重大な事は、一昨年邊りから特に著しくなつた大赤斑が、今年は非常に淡く木邊氏に依つて9月22日20h 30m 中央通過が計時されたが、練瓦色と綠色の混合した様な南赤道帯の南部にあつて淡紅色を示して居る。何時から淡くなつたのか？或は本年に入つて急に淡くなつたのではあるまいか？これ又十分注意して頂きたい。

土星——環が大分開いて來て、近頃では7.5c/m級にも美しいリングの美觀を樂しませてくれる。25c/mを使用するミカシ=溝が充分見える様になつた。本體の縞は南半球に淡い太いのが一條見える。

以上の如くで、今後も觀測を續けて頂きたい。

—E.D—

★掩蔽課 12月分豫報は、急報に發表しました。12月30日に金星に依る η Lib(5.5) の掩蔽がありますが、日本では駄目なのが残念です。オーストラリアで見得るのみです。

★課員へ

觀測報告の送り先	流星	和歌山縣有田郡金屋	小横孝二郎
	黃道光	京都市吉田泉殿59	山本 一清
	遊星面	兵庫縣川邊郡雲雀ヶ丘	伊達英太郎
	其他	京都市上京區東三本木丸太町上ル信樂旅館内	木邊 成磨

★訂 正

		誤	正
210號觀測手引中	一行日の中程	成るが	爲るが
	三行日の太字	變光性	變光星
	下から七行日中程	時良いが	時は良いが